

かえる便り 30年度21号

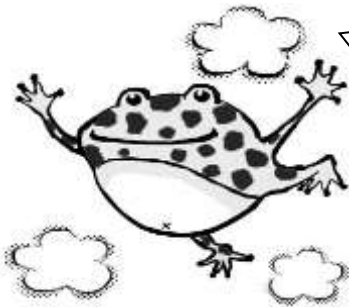
平成30年11月2日

向寒の候、皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。

先日、反省会を開き3年生が胸中を語ってくれました。3年生はそれぞれの思いがよく分かると思いますが、後輩達は何をどのように感じ、どのように思ったのでしょうか？（3年生の思いは別紙にて配布しておりますのでお読み下さい）この反省会は毎年重苦しい雰囲気になりますが、特に、今年の実省会は万感胸に迫るものがありました。それは、3年生にとっても同じではないかと思っています。結果を残させることが出来なかったことに対して、改めてその責任の重さを痛感しました。

新しい主将に横坂君、副将に伊藤、柳山、中村君が決まりました。彼らを中心にチームは目標達成に向けスタートを切りましたが、彼らの行動に大きな変化はありません。本当に目標を達成するという気迫が感じられないスタートです。多くの部員が、

“一日一日を大切にしてい目標達成に向け努力する”と書いていますが、その思いを行動に示せていないと感じています。



獅子の子落とし 自分の子を苦難の環境に落とし、自らの力で這い上がらせる 這い上がる中で、自らの力で歩むことの大切さを学ばせ 自得させる。兄弟の減少などにより、家庭内で子供の役割が少なくなっているのではないのでしょうか？自他のために、自らを犠牲にして行動させることが、自立させるために必要ではと思います…

現状を変えるために大切なことは、**取り組み姿勢を一気に変える**ことです。今までの努力で成果が出せないのは、自分自身の**取り組みが甘く、己に妥協**していたからなのです。そのことに気が付かないで“頑張ります”と、いくら言っても成果は出ません。サッカーで1秒の重みを知らない者は、試合に出る資格はないのです。切り替え時に、“1秒の遅れ”は距離にすると5～7mになります。能力の低い集団が数m遅れたら後手に回り修復不可能な状態になります。1・2年生の行動を見ると以前と変化がありません。自分のペースで物事が動くのであれば、甘い考え方で行動しても大丈夫です。強い相手は、自分達より全てにおいて速く、上手く、強いことから、練習でそれ以上のことを継続してやる必要があるのです。練習が厳しいとよく言いますが、甘い考えだから厳しく感じるのです。スタートは **難有り** ですが、**有難い** と 終えられるよう、毎日自分と部員に鞭打っています。